

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2024

春

No.51

JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

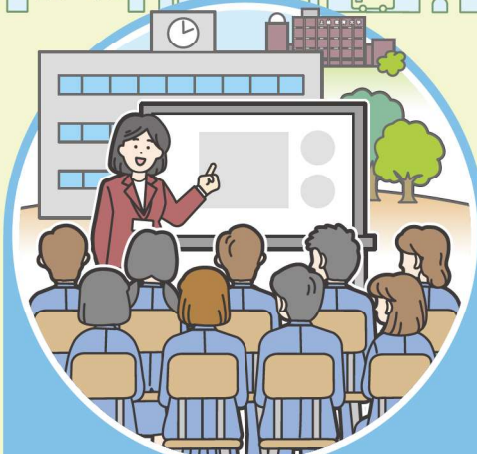
学園だより

特集

「まち」とつながる
みんなとつながる
学びでつながる

上越教育大学

地域への貢献



教員就職率 全国トップクラス!

学校教育学部 **84.8%** 採用数 **112名**

教職大学院 **89.4%** 採用数 **59名**
(現職教員を除く)

※令和5年3月卒業生・修了者の就職状況



研究室

へようこそ

地域の特徴をとらえる

地誌学は地理学の一分野で、地域を構成する要素と要素の関連や、地域の特徴を多面的かつ総合的に理解しようとする学問です。対象とする地域は、集落や町内会のようなローカルスケールから、都道府県や国のようなナショナル、グローバルスケールに及びます。現地に赴き、そこに暮らす人々の話を聞きながら、人々と地域との関係を探ります。何度も現地を訪れるなかで、人々の生々しい生き様に直面することがあります。「地域」が、多様な考え方や生き方をする人々の集合体であることを実感します。また、様々なお話を聞くなかで、その地域を表面的にしか理解していなかったと反省することもあります。でも、そのようにして再理解した地域像から、既往の研究では知られていなかった新たな側面を発見したときの喜びがやめられなくて、研究を続けています。

隣国から学ぶ日本の地方都市の未来

近年は、韓国の地方都市で調査をしています。日本の地方都市は中心市街地の空洞化が深刻ですが、韓国では居抜きによる店舗交代が著しく中心市街地の核となるエリアでは徐々に新しい

店舗が入居します。中心市街地の縁辺部からより中心部に向かって移転するため、縁辺部から商業機能は失われますが、中心部は維持され、空間的なダウンサイジングを実現しています。多くの先進諸国が人口減少時代に突入し、縮小都市 (Shrinking City) へと転換をはかるなか、韓国地方都市の事例は多くの示唆を与えてくれます。

知的学びが感動を与える

学生時代、地理の巡検の授業で城下町を歩きながら、自然地理学の先生が、城がそこに築かれた理由、城下町の形状、堀がそこに配置された理由など、地形とのかかわりを、人文地理学の先生は、町の配置や構造を、風水上の理由、街道との位置関係、防衛上の観点から説明され、他の城下町との相違点も説明されました。自転車をこぐのに苦戦していた急な坂道は先人が築いた堀の一部であったこと、変な形だと思っていた交差点は城下町特有の鍵型(桁型)とよばれる防衛の工夫であったことなどを知り、胸が熱くなる感覚を覚えました。教員となった今、私が感じたような感動を学生の皆さんにも与えられているか、自信はありません。それでも、地理学の面白さ、奥深さ、学校教育における役割、そして現地に赴くことの大切さなどを伝えられるよう、心がけています。



橋本 暁子 (はしもと あきこ) 人文・社会教育学系 准教授

茨城県出身。筑波大学生命環境科学研究科博士後期課程地球環境科学専攻修了。博士(理学)。筑波大学生命環境系助教などを経て、2014年4月本学に着任。専門は地誌学。地誌学概説、地域環境学、地理学実験などの授業を担当。休日には、元気いっぱい3児と遊んでいます。

上教大サイコー!!



今と未来を繋ぐ私の宝物

かけがえのない友と私の挑戦

私はストリートダンス部に所属しています。年に4回ある公演やその他地域のイベント出演に向けて日々練習を重ねています。この部活に入ってから良かったことが2つあります。

1つ目は、かけがえのない友を得たことです。くだらないことでも笑いあったり、時には感動の涙を流したり、同じ瞬間を楽しく過ごしています。彼ら彼女らがいたから乗り越えられたことや挑戦できたことがたくさんあります。大人になってからこんなに素敵な仲間たちを得ることができるとは思っていませんでした。だからこそ、これからもそんな友を大切にしていきたいと思います。

2つ目は、多くのことに挑戦する機会を得られたことです。私はこの大学に入ってから、マイルールとして「すべてのことに挑戦しよう」と決めていました。なので、学内にとどまらず、県外のイベントに積極的に参加したり、自分たちで企画を計画しダンスのイベントを開いたり、新潟市や長野県など県外、県外の人もダンスを通して交流をしています。最初はためらいや葛藤もありましたが、一つの挑戦が次のいろいろな挑戦のきっかけになっていると感じ、今の私をつくっていると思います。

将来の私

私は将来、中学校の英語科教員をめざしています。幼少期から英語に興味があった私は、昔からたくさんの人に英語の魅力を伝え、英語の面白さを感じてほしいと思っていました。この大学では、ボランティア活動や模擬授業を通して、実践的かつ主体的に最新の教育を学習できます。また、留学生とも交流でき、いろいろな国の文化や教育について直接お話を聞くこともできます。これらの貴重な経験を活用し、これからも、この大学でたくさんのお話を吸収し、理想の教師に少しでも近づけるように努力していきます。



学部2年
教科内容構成コース
(英語)
定塚 日菜子 さん

「まち」とつながる

みんなとつながる

学びでつながる

上越教育大学 地域への貢献

上越教育大学は1978年に設置され、今年で46年目を迎えました。「地域に密着した大学」ということをひとつの目標とし、上越地域に貢献する様々な事業を行っています。今回は、本学が行う様々な地域への貢献の取り組みの中から3つ、活動の様子を交えて紹介します。

地域とともに学びを深める
上越教育大学の取り組みの一部をご紹介します!



様々な分野で行われている地域へ貢献する取り組み

- **公募型地域貢献事業**
- **公開講座**
- **出前講座**
- **基幹的な地域連携推進事業**
例：教職員のための自主セミナー
CST(コア・サイエンス・ティーチャー)養成事業
各種教員研修
「ICT、道徳、いじめ不登校、特別支援教育」等
- **文化講演会**
- **各種講習**
例：学校図書館司書教諭講習
教育職員免許法認定講習
「小学校外国語 特別支援教育」
- **大学等との連携推進事業**
例：新潟県立看護大学との連携公開講座
- **その他各種事業**
例：春日山城跡保存整備促進協議会との連携
上越教育大学振興協力会との連携
「外国につながる子どもたち」への修学支援事業 等

**公募型
地域貢献事業**
全9事業
大学の教育研究の成果を生かし、「地域交流」「地域の活性化」等につながる事業を実施しています!

公開講座
全17講座
上越教育大学を会場に、様々な専門分野の大学教員による多彩な講座を開催します!

出前講座
全83講座
上越教育大学の教員や学生が、依頼のあった学校、企業、団体等へ、学びの機会を「出前」します!



公募型 地域貢献事業

上越教育大学の教育研究の成果の地域への還元を目指した事業です。上越市の補助も受け、地域の小中学校、行政、NPO団体、企業等と協力し、地域活性化や、子ども等、地域住民への各種支援等の活動を行っています。

様々な専門性を持つ
上教大の先生が、
「上越をよりよくする」
活動に取り組んでいます!



ヨリ・ミチまちや

アートやものづくりの活動を軸にした放課後の地域ネットワーク
五十嵐 史帆 教授

生活の営みに係るものづくりを軸にした放課後の地域ネットワーク
佐藤 ゆかり 教授

地域の小学生等を対象に、放課後にアートやものづくりを体験できる場を提供します。子どもたちが地域の歴史文化に関心を持つきっかけとなり、町家の保存や地域活性化に貢献することを目指します。活動には美術、家庭、技術分野等で学ぶ学生、院生、留学生も一緒に参加し、地域の子どもと交流しながら、テーマに合わせた制作を行います。

高田地区の改修された町家が「ヨリ・ミチまちや」の会場です。歴史ある通りに、笑顔の子どもたちが集まります。

上越地域難聴幼児支援事業

小林 優子 准教授



上越市健康づくり推進課や、上越地域等の関連諸機関と連携し、難聴を抱える幼児を対象とした「子どものきこえ相談室」事業を実施します。上越地域の難聴児支援のため、情報共有・協議も行っていきます。

- 令和5年度 地域貢献事業一覧
- アートやものづくりの活動を軸にした放課後の地域ネットワーク
 - 生活の営みに係るものづくりを軸にした放課後の地域ネットワーク
 - 上越地域難聴幼児支援事業
 - 「SDGs 子ども大学上越」による人材育成事業
 - 大学・学校・地域連携型の学習支援活動のモデル事業
 - 男女共同参画社会の構築に向けた教育課題・地域課題の探究
 - 親子でデジタルにふれてみよう! IN上越・妙高
 - 「地域資源」の学習を継続的・持続的な「探究」へと支援・発展させるためのアーカイブの収集と体系化
 - 上越地域のエネルギー環境教育の推進とそれに関わる地域ネットワークづくり



制作テーマ

- 6月 なまえパッチ・バッグ
- 7月 まちや歩きうちわ
- 9月 マイスツール
- 10月 地域安全マップ
- 11月 切り干し大根と干し柿
- 12月 きらきらスノードーム

地域貢献事業の詳細、過年度の実施状況は、大学ホームページからご覧いただけます。



ゲームやデジタル機器との上手な付き合い方を考える

田中 圭介 准教授

中高校生を対象に、ゲームやデジタル機器の利点や欠点、自らの普段の使用状況を考え、臨床心理学の知見に基づいた予防教育を実施します。

開催の様子（上越市立雄志中学校）



▲ゲーム好きの講師が、依存症のメカニズムをわかりやすく解説します。



▲ゲームから離れた有意義な時間の使い方を皆で考え、意見を共有します。

チームで進める特別支援教育

笠原 芳隆 教授

特別支援に携わる方を対象とした講座です。講師、受講する特別支援関係者が協力し、障がいのある子どもたちの「個」に応じた指導計画を作成し、特別支援教育への理解を深めます。

開催の様子（新潟県立上越特別支援学校）



講師と寄宿舎指導員（受講生）が共に子どもと向き合い、個性を見極めながら、よりよい支援のためにアイデアを出し合います。

これからも上越教育大学は、地域貢献に取り組み続けます！



●出前講座の詳細、募集状況は、大学ホームページからご覧いただけます。

※令和6年度の出前講座は、令和6年4月以降、本学ホームページ等で公開予定です。

※出前講座の利用には講座ごとに講習料が必要となります。

※新潟県、富山県及び長野県の地域諸学校からの申込みの場合、講習料は必要ありません。



出前講座

学校、住民、企業等の求めに応じて、大学教員が地域に向向いて講座を実施する事業です。令和5年度は全83講座を開講し、延べ146講座*を実施しました。学校での体験学習や、キャリア教育の一環、現職教員の研修会、PTA・町内会行事等としてご利用いただいています。

※令和6年2月15日時点（実施予定含む）

小・中・高等学校の授業や、企業・団体の研修など、様々な場面に講座を「出前」します！



令和5年度 出前講座 開講例	
分野	テーマ名
総合・情報	ゲームやデジタル機器との上手な付き合い方を考える
	ファシリテーター養成 ーホワイトボード・ミーティング®入門ー
	通常の学級における教育的支援を必要とする子の理解と対応
道徳・心理	心配と心の健康
特別支援教育	チームで進める特別支援教育
国語	書写指導の考え方と「文字を書くこと」の基礎
英語	小学校・中学校・高等学校における「主体的・対話的で深い学び」を目指した英語授業づくり
社会・国際教育	「SDGs」を身近なところから
算数・数学・理科	身近な植物観察
	出前実験
音楽	歌唱・合唱講座
	吹奏楽における作品演奏の実践
美術・工作	「現代美術」はわからない?!
体育	トップアスリートのつよさの秘密 ー身体組成データを中心としてー
	現代的なリズムのダンスの導入
健康	笑いヨガ（笑いの健康法）で明るく楽しく元気に!

※分野ごとに実施回数の多い講座等を抜粋して掲載しています。

楽しい体操教室



子どもたちの技能に合わせ、マット、鉄棒、跳び箱等に挑戦！運動が苦手な子どもも楽しみながら運動できます。



ボードゲームで知的思考とコミュニケーション



初心者でも、知的な刺激を楽しめる！家族や友達と交流が深まるゲームです。

木工作を楽しもう



木琴づくりを通し、木材の性質と木工具の使い方を学びます。

デッサンを楽しむ



経験・年齢を問わず、絵画の基本「デッサン」を疑問を解決しながら学べる入門講座です。

Python プログラミング入門 (オンライン開催)



プログラミング言語 Python を用いて基礎的なアルゴリズムを学びます。

進んで自学したくなる 楽しい漢字学習



漢字の部首や部分の意味が分かれば、どんどん覚えられます。ゲームやクイズで楽しく学んで、めざせ漢字名人！

陶芸講座「ロクロで器をつくらう」



粘土の特性を活かし、2日間かけ、ロクロ成形で器をつくり、印やヘラで文様を施します。

木彫を楽しむ



素材や刃物の扱いの基礎を身に付けながら、木と対話し、コツコツと形を刻む楽しさを学びます。

公開講座

上越教育大学を会場に、一般の方の生涯学習や、現職教員等の研修に役立つ講座を行う事業です。令和5年度は全17講座を開講しました。実習や実技を中心とした、多くの方が楽しめる種類豊富な講座が揃っています。

令和5年度 公開講座 実施例

オイラーの等式

$$e^{\pi i} + 1 = 0$$

楽しい体操教室

Aコース：低学年対象
Bコース：中・高学年対象

Python プログラミング入門

進んで自学したくなる
楽しい漢字学習

ボードゲームで知的思考と
コミュニケーション

ー家族・親子・友達とユーロボード
ゲーム体験ー

憲法・政治の基礎知識を
アップデートする

ー民主主義の基盤としての
国民・市民の基礎知識ー



木工作を楽しもう

陶芸講座「ロクロで器をつくらう」

デッサンを楽しむ

木彫を楽しむ

※令和5年度に開講された講座を掲載しています。

小学生からご年配の方まで、
楽しんで学べる
講座がたくさん！



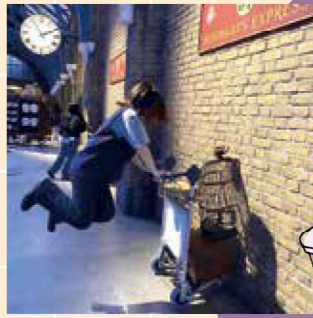
●公開講座の詳細、募集状況は、大学ホームページからご覧いただけます。

※令和6年度の公開講座は、令和6年4月以降、本学ホームページ等で公開予定です。

※申込者が最小実施人数に満たない場合、中止場合があります。

※公開講座の利用には講座ごとに受講料が必要となります。





推し！映画



上野 香衣
学部4年
学校教育実践コース

- 1 映画
- 2 映画鑑賞、映画パーティー、映画スタジオツアー
- 3 現実ではあり得ないことを映画鑑賞を通して体感できるワクワク感が最高！特にハリポッターが好きで、友達とスタジオツアーに行ってきました！！

アイドル推し！



匿名希望
学部2年

※写真は本人私物

- 1 男性アイドル
- 2 ライブ、舞台、DVD鑑賞
- 3 主にライブに行ったり舞台を観に行ったりしてオタクを楽しんでいます！アクスタや写真を買って持ち歩いたり、友達とDVD鑑賞をしたりしています！

アイスホッケー & アイスホッケー部 推し！



- 1 アイスホッケー
- 2 マネージャーとして選手の皆さんのカッコいい姿を動画に収め、プレイヤーとして見返して自分のプレーに生かしています。
- 3 アイスホッケーは見るのもやるのもとても楽しいです！私にとって人生初のチームスポーツなので、これからも愉快的仲間たちと楽しみながら頑張りたいです！



神保 心優
学部1年

山本 実咲
学部1年

- 1 アイスホッケー
- 2 アイスホッケーが好きすぎてマネージャーもプレイヤーもやっています。どちらもとても楽しいです。
- 3 アイスホッケーの好きなのはやっても楽しいし、見てても楽しいことです。アイスホッケーは、激しい競技なので怪我しないように頑張してほしいです。

編集後記

自分たちが考えた企画が素敵な記事になってとても嬉しいです。友人の推し活の様子を見て、新たな一面を発見することができ、面白かったです。

藤井 優希
学部2年 教科内容構成コース(家庭)
星 智尋
学部2年 教科内容構成コース(国語)

「推し」への愛が止まらない！

上教大生 わたしの推し活！

学生がつくる 上教大生のひろば

「推し活」で大学生生活をさらにハッピーに！上教大生が誰をどんな風に「推し」ているのか聞いてみました！

Q1. 「推し」の名前は？

Q2. どんな「推し活」してる？

Q3. 「推し」にひとこと or 推し活についてひとこと

ミスド (ミスタードーナツ) 推し！

- 1 ミスタードーナツ
- 2 ミスドが好きすぎて、友達と仲良くミスドで働いています！
- 3 ミスドバイトの人はとっても仲良しです！みんなとても明るく元気です！！ミスドのバイトの人たちでご飯に行くこともあるし、旅行に行っちゃう人たちもいます！ミスドで嬉しい出会いがたくさんありました♡



好きすぎてアルバイト中！

- 1 ミスタードーナツ
- 2 推しメニューはダブルチョコレートです。他のドーナツに比べて甘すぎず、とても食べやすく飽きないドーナツです。甘党じゃない人にもおすすめです！！
- 3 いつも明るく元気に働いている仲間がたくさんいるので、ミスドに行くと元気をもらえます！ドーナツだけでなく、ピザ、ドリンク、飲茶など、魅力的な商品がたくさんあるので、多くの人にミスドに訪れて欲しいなと思います！



平鍋 美侑
学部3年
学校教育実践コース

- 1 ミスタードーナツ
- 2 バイトがない日もドーナツを買いに行っちゃいます♡それは、ミスドが好きすぎるから！そしてバイト仲間が好きすぎて会いたくなっちゃうから！
- 3 四川坦々麺が好きすぎてバイトの休憩中はいつも食べてます！最近は期間限定トムヤムクンにハマってます。

藤井 優希
学部2年
教科内容構成コース(家庭)

小林 千紗
学部2年
学校教育実践コース





修了生からの
お便り



言動の背景を探り、 支える

「大学院はどのタイミングで入るのがベストだろう。」
当時学部生だった私は現場を経験せず、大学院に入学することに不安を抱いていました。漠然と同大学の大学院は、現場で経験をつみ、その中で見えた課題と向き合いながら研究するという流れが主流であると考えていたからです。
しかし、現場に足を踏み入れた今、大学院で学ぶことに時期など関係なかったと感じています。「もっと知りたい」「学びたい」という気持ちが高まるきっかけは人それぞれで、そこに経験の有無は関係ありません。私にとって研究への意欲が大きく高まったのは大学4年生の時であり、大学院の2年間は純粋に自分の研究と正面から向き合える貴重な時間となりました。
大学院では池田吉史先生のゼミでお世話になりました。修士論文では、抑制機能のメカニズムに着目し、制御方略の発達のメカニズムを分析しました。私の研究は必要となるデータが幅広く、一人で行うのは不可能でしたが、当時のゼミの仲間達が手を差し伸べてくれたおかげで、保育園児から小学校6年生までの大規模なデータを集めることができました。池田先生をはじめ、ゼミの仲間達にも恵まれ、幸運な大学院生活を過ごせたと思います。心から感謝しています。
また、研究と並行して、小学校で支援



岩下 史弥
(いわした ふみや)

長野県佐久市出身。上越教育大学大学院入学。学校教育研究科 発達支援教育コース 特別支援教育領域に在籍。大学院修了後は、新採用で長野県東御市立滋野小学校に勤務。同学校に勤務して2年目となる。

員として協力させていただいた経験も貴重なものでした。支援を必要とする子ども達に対して、時間をかけて向き合い、P D C A を繰り返しました。2年間共に支援に入ったゼミ生や池田先生と支援について語り、子ども達の成長した姿を喜んだ時間が今も忘れられません。
現在は小学校教諭として働いていますが、子ども達と向き合う中で、表面的な言動だけでなく、その要因となる背景を考えることを大切にしています。これも、大学院時代の研究や実践の経験が生かされていると実感しています。今後は次の世代へつながる子ども達に「もっと知りたい」と思えるよう、教育に尽力していきたいと思っています。

上越教育大学 附属幼稚園

園舎の裏は大きな森。
思い切り自然と
親しんでいます。



異年齢でかかわって遊んでいます。



園庭の木になる実は、
採って食べることも
できます。



四季折々の遊びが
楽しめます。



生き物を捕まえて遊べる
池があります。



いろいろな道具
を使って遊んで
います。



どろんこ大好きな
子どもたちです。



附属学校だより

太陽・土・水が 大好きな子ども

幼児にとって、遊びは「学び」。本園は「生きる力の基礎」を育むため、幼児の主体的な遊びを大切にしています。職員は、「幼児は自ら育つ」とする存在である「子どもも親のもと、幼児の育ちを支える保育に、日々愛情と情熱を注いでいます。」

本園では、令和5年度より研究主題を「つながる保育」と設定しました。本研究では、保育観を共有している職員との語り合いや保育の評価にとどまらず、他園や他校種の違う文化的な背景や価値観にふれることによって、本園の保育を捉え直し、保育の質のさらなる向上を目指しています。そのために、研究1年次である今年度は研究副題を「園と園のつながりをつくる」としました。園同士の交流を通して、幼児教育・保育の質への理解を共に深めることを目指し、相互に保育の捉え直しを行ってまいりました。
具体的な取組として、「カンファレンスの公開」「交流だよりでの情報交換」「園同士で共に研修する場、共に保育をする場の設定」を行いました。
その成果は、令和5年9月13日、28日の幼児教育研究会において発信・提案しました。これらの研究を通していただいた様々なご意見、ご感想を今後の保育に活かしていきます。

子ども主体の保育について 一緒に考えませんか

本園では、子ども主体の保育を目指し、他園や他校種との交流を行っています。
一緒に保育をしたり、一緒に研修をしたりする交流に興味がある方、また、月に1回程度の公開保育と公開カンファレンスに参加を希望される方は、お気軽に園にお問い合わせください。



HPIはこちら▶



自然・生活教育学系
教授 古屋 光一

プロフィール

2018年4月、教授として着任。専門は理科教育学、理科教師教育学。

6年間、大変お世話になりました

修士・博士と上越教育大学でご指導いただきました。その後、中学校から大学に勤務しました。そして、平成30年から本学に勤めることができました。先生方、学生さん、そして事務の皆様へ助けられ、充実した日々を過ごすことができました。ありがとうございました。皆様のご健康と本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。



自然・生活教育学系
教授 中村 雅彦

プロフィール

1991年4月、文部技官として着任。助手、助教授等を経て、2004年4月、教授に就任。専門は動物生態学、進化生態学。

研究、教育と趣味の三位一体

動物生態学者の私にとって、上越教育大学の林、弁天池と雨池、周囲を流れる正善寺川と大瀬川は、最高のフィールドでした。このフィールドで、研究、教育と釣りなどの趣味が三位一体となって33年間を過ごすことができました。33年間で修論、卒論指導で同じ時を共有した100名を超える学生は、私にとってなによりの宝物です。



学校教育学系
教授 菅原 至

プロフィール

2016年4月、教授として着任。専門は教育組織、教師教育、教育経営学。

アンラーニングの時間

本学での8年間は、小・中・高校の教員として人を育てる仕事にかかわり、教職や教育を通して身に付けた考え方を再考する時間となりました。同僚との議論や学生（院生）との対話は、自らのアンラーニング（学びほぐし）の時間でもありました。教職員、学生の皆様へ心より感謝申し上げます。



学校教育学系
教授 松井 千鶴子

プロフィール

2005年4月～2007年3月、准教授として着任。2010年4月、准教授として再着任。2016年10月、教授に就任。専門は総合的な学習、教師教育。

懐深い妙高山に学ぶ

白の塊からはね馬が見え始め、その馬がだんだん太くなり、力強い山容を表す妙高山。険しくはあるのですが、そこにあってすべてを受け入れてくれる……そんな姿に日々学び、心豊かに過ごせたように思います。学校現場と共に歩む本学の姿勢が今後とも続き、ますます発展するよう、心よりお祈りいたします。



学校教育学系
教授 田島 弘司

プロフィール

1997年4月、講師として着任。助教授、准教授を経て、2021年10月、教授に就任。専門は日本語教育。

人生で最も長く過ごした上越に感謝

娘は大学から上越を離れましたが、私は妻と山屋敷職員宿舎に27年間住みました。かつてこれほど長く同じ所に住み続けたことはありませんでした。上越の自然の恵みとそこに住む人々との豊かな交流、そして大学の教職員の方々や学生たちと過ごした楽しく有意義な時間に対して心から感謝申し上げます。



学校教育学系
教授 釜田 聡

プロフィール

1988年4月、附属中学校教諭として着任。講師、助教授および准教授を経て、2009年1月、教授に就任。専門は国際理解教育、総合学習。

36年間、ありがとうございました

上越市内公立中学校6年、附属中学校14年の勤務を経て、2002年4月に本学に着任しました。教員生活42年のうち本学には36年間お世話になりました。この間、多くの生徒・学生と出会い、教職員の皆様から支えていただき、幸せでかけがえのない時を過ごすことができました。お世話になった全ての皆様へ心より御礼申し上げます。



芸術・体育教育学系
教授 直原 幹

プロフィール

1985年4月、文部技官として着任。助手、講師および助教授を経て、2006年4月、教授に就任。その後、附属中学校長、副学長を歴任。専門は運動学、運動生理学。

交剣知愛（こうけんちあい）

剣道界に古くからある良い教えです。「愛」は「おしむ（惜別）」、大切にせず手放さないということの意味であり、あの人ともう一度稽古や試合をしてみたいという気持ちになること、また、そうした気持ちになれるように稽古や試合をなささいという教えです。今後も皆さんの「交剣知愛」を祈念申し上げます。



臨床・健康教育学系
教授 五十嵐 透子

プロフィール

2009年4月、教授として着任。専門は臨床心理学。

ピリオドを打つ時間の中で

人の発達段階を講義していたことを、いつからか意識する時間を過ごし、1つの社会的システムにピリオドを打つ実体験をしています。これらは、これまでの生活がどれほど充実していたのかを示しており、深い感謝の念を抱いています。感じ、考え、1人ひとりのもつ無限の創造性と可能性を広げ統合し、新しいモノを作り続けてください。



臨床・健康教育学系
教授 大庭 重治

プロフィール

1987年8月、助手として着任。助教授を経て、2003年2月、教授に就任。その後、理事・副学長を歴任。専門は特別支援教育。

恵まれた環境と豊かな自然に感謝

長きにわたり大変お世話になりました。多くの修了生の皆さん、そして頼もしい研究仲間、上越で出会うことができた私の宝物です。また、冬の晴れた日、人文棟8階の研究室から眺めた米山、心に沁みる思い出です。この恵まれた研究環境と四季折々の豊かな自然が、これからも永く続くことを祈っています。

退職教員から
皆さんへ




J-style 通信

地域貢献と大学

学長 林 泰成



ご卒業・ご修了される皆さん、誠にめでとうございます。本学での学びを終えた皆さんは、すでに教員としてあるいは臨床家としての基礎的な力は身につけていると思いますので、これからは学校現場等で、その技能にさらに磨きをかけ

てください。また、皆さんの中には、学校教育とはあまりかわりのない職業に就かれる方もいらっしゃると思います。が、本学での教育の学びは、幅広い教養として皆さんの将来に役立つものと信じています。それぞれの場での活躍を祈念しています。

さて、本号の特集テーマは「上越教育大学 地域への貢献」ですので、関連することを述べたいと思います。

大学は、教育研究機関ですが、現在では、社会貢献や地域貢献が強く求められています。令和3年12月に中教審から出された「これからの時代の地域における大学の在り方について」（審議まとめ）でもそうしたことが記されていますし、現在の学校教育法では、教育と研究に加えて、「成果を社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と記されています。とくに国立大学は、計画的に各都道府県に配置されているわけですから、それぞれの都道府県で、センター的役割を担うことが求められていると言えます。大学も社会の変化と無縁ではありません。学問の重要性を否定するつもりはありませんが、しかし、社会の要請に応じて大学自体が変わっていかなければならない時代が到来している

だと思っています。

本学の場合は、新潟県内や近隣県からの入学生が多いとはいえ、北海道から沖縄まで、全国から学生が集まっていますし、全国で活躍できる教員を養成していきますが、同時に、この近隣の学校で実習をさせていただいているということもあつて、この地域の学校の特色を踏まえた教育実習や学校実習になっていると言えます。

また、ありがたいことに、地域の教育委員会や各学校は、さまざまな形で、大学と連携してくださっています。人事交流で本学附属学校で活躍いただいている先生方や、同じく人事交流で本学の所属になつている学教センターの特任准教授の先生方、また、退職後に本学特任教授として活躍してくださっている先生方もいらつしやいます。本学の教職員も含め、この地域のさまざまな方々の支援と学生の皆さん自身の努力によって、本学は国立大学の中でもトップクラスの高い教員就職率を誇っているのです。

学生の皆さんが、この地域で学び、この地域の文化の発展に寄与し、そして、全国に通用する教員や教育支援職として活躍することを願っています。

上教大 なんでも 掲示板



第16回 辰野千壽教育賞の選考結果

令和5年10月6日(金)に第16回(令和5年度)辰野千壽教育賞の授与式を挙行し、優秀賞1名、奨励賞2名に賞状を授与するとともに副賞を贈呈しました。同教育賞は、初代学長である辰野千壽氏の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与える優れた教育・研究の振興に貢献するため創設されました。初等中等教育諸学校等の教育現場における特色ある実践研究や先進的取組みを讃え、更なる発展に向け積極的に支援することを目的としています。



▲辰野千壽教育賞 詳細はこちらから

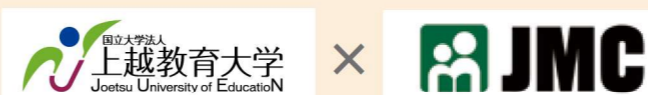
●優秀賞

氏名	所属・職名等	主題及び副題
高木 哲也	筑波大学附属高等学校 外国語科教諭	高校英語授業における言語面の正確性向上を目指した筆記ランゲージングの実践 -日本語を活かして理解を深める新たな英語指導法の浸透を求めて-

●奨励賞

氏名	所属・職名等	主題及び副題
有江 聖	埼玉県さいたま市立 本太小学校教諭	グローバル・スタディ科におけるICTを活用して主体的に「話すこと」に取り組む児童の育成～まるで現地ガイド!? 自他と「繋がる」クロマキー合成の可能性～
水流 卓哉	愛知県豊橋市立 二川小学校教諭	AARサイクルの理論を援用した自治的集団の育成

株式会社JMCとの 包括的事業連携協定を締結



本学と株式会社JMC(本社:東京都港区、代表取締役社長:坂本 憲志)は、令和5年10月11日(水)、本学において包括的事業連携協定を締結しました。本協定は、双方の資源を有効に活用しながら、共同研究等を通じて教員養成や大学IR(Institutional Research)促進のための教育データの利活用を目的としています。

今後は、「教員養成や現職教育におけるIRによるキャリアのモデル化とスキルズインベントリーの開発」及び「教員の持つ暗黙知を形式化化する教育法の開発とモデル化」を主な連携事項として研究を推進します。



(株)JMCの坂本社長(左)と林学長(右)

学部教員就職率 84.8%! 全国第2位

文部科学省が公表した国立の教員養成大学・学部の令和5年3月卒業者の教員就職率において、本学は84.8%(卒業生から大学院進学者と保育士就職者を除いた数を母数とした場合)で、全国44大学・学部中、第2位となりました。

教職大学院(大学院専門職学位課程)令和5年3月修了者の教員就職率は89.4%でした。

11年連続80%以上・全国5位以内達成は 本学のみ!



インタビュー 大学院で輝く人

大学院2年
発達支援教育実践研究コース
学校ヘルスケア領域
なかのゆみ
中野 裕美 さん

入学を決めた理由

現職の栄養教諭として、上越市の公立小学校に勤務しています。栄養教諭は、子どもたちが将来にわたって健康に生活できるように、子どもの健康に資する安全安心でおいしい給食の提供と子どもへの食教育を職務としています。食に関する望ましい習慣や自己管理能力を高めるためには、校内の連携はもちろん、家庭、地域とも連携して取り組むことが重要です。今までも学級担任や養護教諭と連携して授業を行ってききましたが、自分の指導方法は子どもたちに効果的だったのか、学校全体で食育に取り組むにはどうしたらよいのだろうか、と悩む日々でした。そこで、上越教育大学大学院で学び、栄養教諭に特化した高度な専門能力を獲得したいと考えました。新潟県では栄養教諭は現職派遣制度の対象外であるため、私は現任校での勤務を続けながら大学院に通っています。業務との両立は大変ですが、大学院での学びを即、現場で実践できる環境でもあります。



大学院での学び

大学院では、ストレート院生も同じ立場で学び、実践研究をしています。研究室の教授、そして院生との学びは、知識の更新とともに自分とは異なる価値観への気づきがあり、今までの実践を立ち止まって振り返ることができます。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められる中で、子どもたちに知識を伝え過ぎていたことや100点満点の食育を求めている自分に気づきました。

学び続ける栄養教諭に

子ども主体の食育となるように、どのようなアプローチが有効なのか、今後も自ら考え、省察し、次の実践につなげていきたいです。自分自身

も主体的に学び続ける栄養教諭でありたいと強く思います。



インタビューを終えて

中野さんは院生仲間であり、学校支援プロジェクト先の栄養教諭でもあります。それぞれの立場で熱心な姿に日々刺激をもらっています。共に学び、時に助言をいただきながら、一緒に研究を進めていきたいと思っています。

■ 聞き手・文(写真右)

大学院1年
発達支援教育実践研究コース
学校ヘルスケア領域
西代 萌衣



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品をお送りいたします。

